

## 台湾台南市中心部の街区における空間構造の形成過程に関する研究

正会員	○三文字昌也*
同	西村 幸夫**
同	中島 直人***
同	黒瀬 武史****
同	中島 伸*****

台湾台南市	都市形成史	空間構造
-------	-------	------

## 1. 研究の着眼点

## 1.1. 研究の概略と目的

台湾の南部に位置する台南市は、漢人の入植、オランダ人の割拠、明・清の統治、日本の統治、そして戦後の発展といった複雑な歴史を経る中で、各時代それぞれの空間構造が現在の都市空間に顕れている。それぞれの時代の空間構造には合理的な理由と論理があったが、それらがミックスされている現在の都市空間に一貫する空間論理はなく、現在では街区内の奥まった敷地において空地・空家化が進行するなど、重層的な都市構造に起因する問題が深刻化している。しかし一方で、こうしてできた都市空間は古都としての観光需要を喚起しているのみならず、市の中心部での静謐な住環境など様々な価値を生んでいるとも言え、台南の特長を形成している。

本稿では、台湾各都市の重層的な都市構造を解き明かしている既往研究<sup>[1][2]</sup>をベースに、具体的に台南市の中心部の一街区を特に取り上げ、実際の空間の詳細な分析から都市形成過程と空間構造、その要素を明らかにする。

## 1.2. 研究対象街区

本研究の対象は台南市街地の中心部にある180m四方ほどの街区である。台南駅から徒歩15分、著名な観光地の赤崁樓から徒歩5分という好立地性により、道路沿いに飲食店などの商業が並ぶ一方、街区内部には狭い路地が張り巡らされ外の空間とは違うローカルな住空間が広がっている。この街区は、台南市街地の都市形成史上、極めて典型的な空間構造と要素を示している。



図1：対象街区の位置図（1/1000 臺南市数値地形圖より筆者作成）

## 2. 台南都市形成史の概観と街区構造の分析

## 2.1. 漢人及びオランダ人による入植

古くから台南近辺には漢人が入植していたが、17世紀初期にオランダ人が城郭を海岸部に建造し貿易の拠点としてから台南が台湾島全体の中心地として捉えられ、都

市としての発展が始まった。

## 2.2. 明・清代における都市発展

明代（鄭氏政權）・清代を通じて台南は発展し、漢人による中華式の都市構造が現れた。清代の町並みは、市街地を取り囲む城壁の中で、「街」と呼ばれる表通り沿いに狭い間口と奥に長い敷地を特徴とする商店建築が立ち並び（ガワ）、「巷」と呼ばれる細い路地に低層の住宅建築が密集していた（アン）。後述する騎樓（亭子腳）や公壁といった空間要素が現れ、城壁内の限られた土地を最大限活用する工夫が随所に見られる。また、交差点や重要な地点に廟が置かれ、住民コミュニティの重要な核となった。図2は日本統治時代初期の地図であり、清代までに形成された対象街区付近の都市構造が見て取れる。

## 2.3. 日本統治時代における都市計画

1894年から日本の統治が始まり、1911年の第一期市区改正計画、1929年の第二期計画を経て日本人の手による都市計画が導入され、グリッド状の都市計画道路が建設された（図3）。道路に囲まれた街区がおおよそ100~200mとなるようにグリッドが敷かれた結果、かつての表通りがそのまま新しい都市計画道路になった例もあれば、城壁を道路に転用したり、既存の街区を斜めに割るように道路ができたりした例もある。そんな都市計画道路沿いの敷地には都市の新たな「ガワ」となる中高層商店建築が新たに形成された一方、道路と道路に挟まれた街区の中、いわば「アン」敷地の中は、かつての商店建築、低層住宅群や細い路地が従前のまま高密度で残った。



図2：「臺南市街圖」

（1907年）の一部

図3：「臺南市區改正計劃圖」

（1910年）の一部

## 2.4. 戦後から現在に至るまでの都市更新の状況

日本統治時代の都市計画による骨格は現在に至るまで承継され、各々の敷地内で建築の個別更新が起きる形で都市更新が進んできた。主に道路沿いの「ガワ」敷地では建築の更新が頻繁に起きており、高層化が激しいが、

一階部分の用途はほとんどの場合で飲食店を中心とする商業である点は従来と変わらない。ただ場所によっては道路沿いの敷地が数筆まとまって大規模再開発の種地となり、高層の商業施設・ホテルなどになる例もある。

一方、街区の内側の「アン」敷地では更新頻度は低く、日本統治時代の木造家屋や伝統的な閩南建築も残っている。その中でも、車が通れる道幅の路地（巷）に接した敷地だと更新されやすく、3~6層程度のアパートになる場合が多い。建築用途はほとんど住居であり、接する路地に竈や洗濯機が置かれるなど、路地空間ごとと生活空間化されている。「ガワ」となる建築に囲まれ、中心部ながら比較的静謐な住環境が保たれていることは特筆されよう。

しかしながら、高齢化や郊外への人口流出を主たる要因とする空地・空家の発生（図3）がこうした街区の内側に集中していることはこれからの大きな課題である。



図4：台南中心部の街区での空地・空家調査（筆者作成）

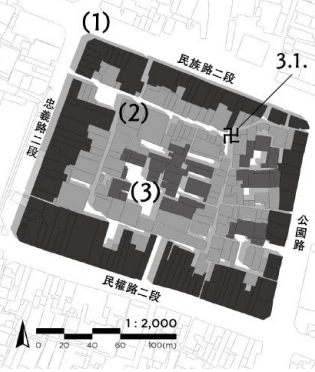


図5：街区構造の分析（筆者作成）

## 2.5. 街区構造の分析

ここまで見たように、対象街区には(1)日本統治時代の新しいグリッド道路沿いにできた中高層商店建築、(2)街区内に取り残されてしまったかつての清代の表通り沿いの商店建築や廟、(3)その中の低層民家群という3層の空間構造が見て取れる。この3層構造を図示したのが図5である。敷地の接道状況と建築のパターンという空間的な分析による分類だが、一方でこの3層構造はその空間を使う人々の属性やそれぞれが抱える課題の分類だとも見て取れる。例えば、商業を営み入れ替わりが激しい(1)の人々に対して、純粋な住空間としての(3)には古くから住む住民が多く、流動が少ない。この構造は台南中心部の他街区でも見られるものだと推察されるが、より詳細な分析は今後の研究課題となろう。

図6には、この3層構造に対応する、ここまで見てきた都市形成史の概略を示した。

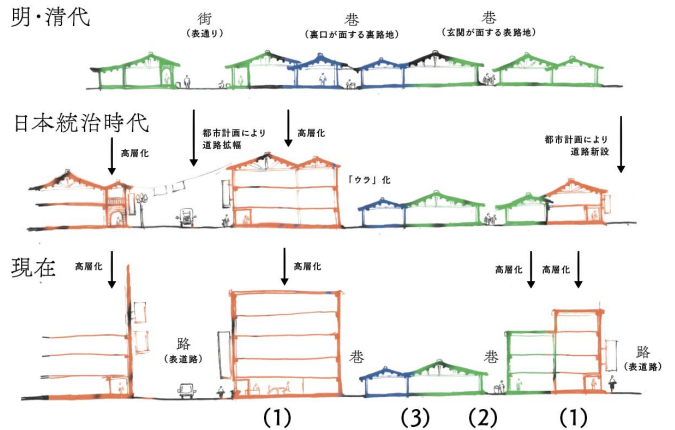


図6：台南における都市形成史の概略図（筆者作成）

## 3. 今に伝わる特徴的な台南の空間要素とその価値

### 3.1. 廟と廟埕

清代の都市骨格上重要な地点には廟が存在した(図5)。廟の前には廟埕と呼ばれる前庭があり、祝祭行事の場になる他、屋台や市が立ち並ぶ賑やかな場所でもある。日本の都市計画により廟の位置は新しい都市骨格とずれたが、今でもなお地域の住民の貴重な共有空間である。

### 3.2. 騎樓（亭子腳）

大通り沿いの建築の一階部分のアーケード。現在は騎樓設置による容積率ボーナスがあるなど設置が推奨されており、台風や強い日差しなど現地気候に対応している。

### 3.3. 公壁（共有壁）

台南では隣棟と壁面を一体化し共有している建築が一般的である。かつての煉瓦造建築ではこの公壁そのものが煉瓦積の構造体で、壁を残したまま改築が繰り返される合理的な様式だった。こうした公壁の存在が昔からの敷地割を物理的に固定している。現在の建築物は鉄骨やRC造が主だが、相変わらず壁は隣の建築物の壁と一体となるよう煉瓦を積み上げる場合が多い。このことによって建築更新を隣家と協調的に進める必要性が生じ、結果、協調的なまちづくりが為される土壤が生まれている。

## 4. 小結

以上、対象街区でのケーススタディから台南の都市形成過程を明らかにし、空間的特性と課題の把握を試みた。

## 参考文献

[1]青井哲人：『彰化一九〇六年』（アセテート書籍、2006）  
 [2]黄淑俐：『隱藏於舊街廟中的非計畫性空間形式探討—以台南市街巷空間發展為例』（中原大學碩士論文、2004）  
 [3]郭中端、堀込憲二：『中国人の街づくり』（相模選書、1980）  
 [4]孫全文、邱肇輝：『台灣傳統都市空間之研究』（詹氏書局、1992）  
 [5]茂木計一郎他：『騎樓型民居の構成に関する研究』（住宅総合研究財団研究年報 No.18、1991）

\*東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程  
 \*\*東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授  
 \*\*\*東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授  
 \*\*\*\*九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部 准教授  
 \*\*\*\*\*東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 助教

\* Master Course, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo  
 \*\* Professor, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo  
 \*\*\* Associate Professor, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo  
 \*\*\*\* Associate Professor, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University  
 \*\*\*\*\* Asst. Professor, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo